



## レンコンには、どうしてあながあいているの

### レンコンは、ハスの地下けい

レンコンは、何なのか知っていますか。池に咲いている、ハスの花の、地下けいなのです。ハスの葉で作られた栄養分をためてある、どろの中にもぐった、地下のくきです。

レンコンなどの植物も、動物と同じように、呼吸をしています。そのため、酸素（空気）を取りこまなければなりません。ところが、ハスは、葉の表面と花以外は、水の中にあります。また、ハスは、地下けいをのぼして、どんどんふえていきますが、地下けいは、どろの中にもぐっています。ですから、空気を体内に取りこむのは、なかなかむずかしい環境にあります。そこで、ハスの体の中には、空気の通り道が作られています。

### 葉の表面から続いている、空気の通り道

レンコンのあなは、じつは、空気の通り道であり、空気をためておく場所でもあるのです。ハスの葉を調べてみると、葉のふちのすじの先に、小さいあな（気こう）が開いています。葉のえを横に切ってみると、レンコンと同じような、あなが開いています。そのあなは、地下けいにつながっています。

ハスは、水面にういた葉から、空気が入り、それが地下けいまで入りこめるような体のしくみになっているのです。（監修・矢野 亮）

